

キャンパス通信

丹波発

第3部 京都医療科学大

② マンモグラフィー 乳がん早期発見へ実習

10月1日は何の日か知っていますか? 「乳がん検診の日」です。10月はピンクリボン月間として、乳がん啓発キャンペーンが世界中で行われており、先日搭乗した飛行機は、機内の照明がピンク色でした。京都タワーも同色にライトアップされました。

乳がんは、11人のうち1人の割合で発症しています。生活の洋風化、晩婚、出産数の低下などが原因で患者数は増加しています。しかし、早期発見、早期治療でほとんどの乳がんは助かります。市町村などは2年に1回、40歳以上の女性



とおやま・けいこ 愛媛大学法文学部卒。診療放射線技師。2001年から現職(当時は京都医療技術短大)。専門はエックス線撮影技術学。

遠山 景子 講師



人工乳房を装着して、マンモグラフィー検査の実習に臨む学生たち(南丹市園部町、京都医療科学大)

にマンモグラフィー(乳房エックス線撮影)検査を実施しています。この検査は診療放射線技師が撮影しています。

がんは乳房内の乳腺に発生し、しこりをつくりまします。乳房はおわんのように丸く、乳腺は乳房の中で固まりを持っていて、そのままでは隠れたしこりを発見するのが困難です。

そのため、撮影の際には乳房を薄く伸ばし、2枚の板で動かないよう挟みまします。検査を受けた女性から「痛かった」と言われるのはこのためですが、しこりが隠れていないかどうか確認するため、全体を薄く伸ばすには技術が必要です。若い女性は乳腺が密集し、薄く伸ばしても正常な乳房と乳がんの区別が難しく、がんを見つけにくいことがあります。若い女性では、マンモグラフィーに超音波検査を加えると乳がんの発見率が高くなるとして市町村検診への超音波検査

の導入も検討されています。

本学の実習では、学生に人工乳房を身に付けさせ、乳房を挟む体験学習をしています。卒業後、マンモグラフィー専門技師の資格を取得する女子学生も多くなります。卒業生から「雪の中にいる白うさぎを見つけるように大変ですが、マンモグラフィーと超音波検査で、鮮明な写真を撮れるよう頑張っています」と聞くと、うれしくなります。

2017年には約1万4千人が乳がんで亡くなりました。早期発見で、1人でも多くの患者に元気で生き続けてほしいです。ぜひ検診を受けてください。

次回はエックス線のコンピューター断層撮影(CT)について紹介します。